

農場の衛生管理対策について

家畜伝染病（口蹄疫、ヨーネ病、サルモネラ症など）が発生すると、大きな被害をもたらします。令和5年は宗谷管内においても例年以上に発生が多く、発生農場では終息まで長期間の対策を余儀なくされました。日頃から病原菌の侵入リスクを意識して、衛生管理対策をとりましょう。

1. 衛生管理区域の設定

農場では病原体の侵入リスクを低減するために衛生管理区域を設定することが定められています（飼養衛生管理基準より）。

区域の境目はコーンやロープなどで区分して、看板などで明確にしましょう（図1）。

衛生管理区域への立入時は消毒や靴の履き替えを行って病原体の侵入リスクを低減しましょう。

衛生管理区域には、畜舎、パドック、放牧場、家畜に直接接触する物品（保定用具や体温計など）の保管場所、家畜に直接接触した者が消毒や衣服及び靴の交換を行わずに行動する範囲を全て含みます。



図1 衛生管理区域の設定イメージ（島根県作成、一部改変）

2. 農場への病原体持ち込み防止対策

基本的な対策である石灰帯、踏込消毒槽、防鳥ネットについて紹介します。

※特に石灰帯、踏込消毒槽の取組は訪問者に対する心理的なバリア効果を与えます。

(1) 石灰帯

石灰帯を設置する目的は、外来者が衛生管理区域内に立ち入る際に病原体の侵入を防ぐことです。一般的には消石灰が使われます。

散布長さの目安はタイヤの接地面に満遍なく消石灰が付着する長さ（タイヤが1回転する長さ）です。大型トラックのタイヤ1回転は3mを超えるため、散布長さは4m程度確保しましょう。

散布量の目安は0.5~1kg/m²です。例えば、道幅3mで4m散布する場合、消石灰は6~12kg必要となります。散布後にジョウロを使って水を少しかけると効果が高まります。



写真1 石灰帯の例

(2) 踏込消毒槽

消毒液は糞などの有機物が混入すると効果が低減するので、洗浄槽を用意するか、水洗い場で長靴の汚れを落としてから消毒槽に入りましょう。消石灰との併用は中和により殺菌効果がなくなりますので絶対に避けましょう。

また、消毒薬は適切な濃度でつくらないと十分な効果を発揮することが出来ません。例えば、アンテックビルコン®Sを使用する場合、希釈倍率は100倍です。

一般的な踏込消毒槽（写真2）は容積が20Lですので、消毒薬を100g投入し、半分（10L）まで水を注ぎ、軽く攪拌して消毒液を作成します。

ちなみに、病原体持ち込み防止の観点からは、専用長靴を用意して履き替える方が効果は高いです（写真3）。



写真2 踏込消毒槽



写真3 来場者用長靴を用意している農場

(3) 防鳥ネット

防鳥ネットの設置は鳥によってもたらされる病原体の侵入リスク低減に有効です。

防鳥ネットを選択する際には、目合いのサイズの目安は小鳥で20mm以下、ハトで30mm以下、カラスで50mm以下程度です。

窓を開ける場合は、トリカルネットなどを張りましょう（写真4）。

牛舎入口に設置する際は、入口とネットの隙間をできるだけつくらないように取り付けましょう（写真5）。

定期的に点検をして破損があったら補修しましょう。



写真4 牛舎窓のトリカルネット設置例

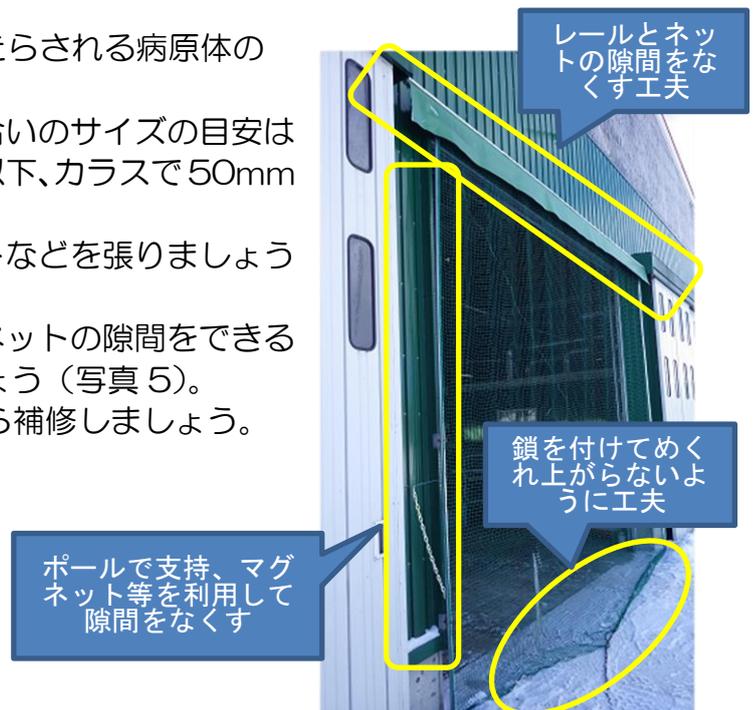


写真5 牛舎入口の防鳥ネット設置例

*最後に

衛生管理対策については、農場内への持ち込み防止対策の他、清掃・洗浄など農場内で病原体を広げない対策、免疫力を低下させない乳牛の健康管理も重要です。合わせて取り組んで防疫効果を高めましょう。

（作成：令和6年7月 宗谷農業改良普及センター）

